

◆経済倶楽部講演会第4311回（11月29日）

# 2020年波乱含みの米大統領選を どう見るか

東洋英和女学院大学客員教授

なか おか  
中岡

のぞむ  
望

- \*アメリカ政治の地殻変動
- \*共和党は「キリスト教原理主義の党」に
- \*ブッシュ大統領の選択
- \*トランプの新しい支持層
- \*民主党はまともまれるか
- \*行き詰る二大政党
- \*共和党穏健派に離脱の兆し
- \*直前の景気が選挙を左右
- \*ウオーレンが礼賛したMMT
- \*修正困難な選挙制度



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、もうすっかりおなじみになりましたが、中岡先生においでいただき、アメリカの動向についてお話をいただくことになっております。トランプ再選の可能性が高いという話が日本では大分出てきておりますが、実際、選挙はどういうふうになるのか。今、来年に入ると予備選が始まるというところで、一方の民主党は候補乱立で見通しがたいへんつけにくい状況でございます。そういった選挙の話と、この選挙がアメリカの歴史的な位置づけとして、どういうものであるかということもいつものようにお話をいただけたと思います。

それでは中岡先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

中岡 前回はちょうど昨年の同じ時期に中間選挙を主にお話ししたのではないかと記憶しております。

経済倶楽部で定期的にお話をするようになったのは2003年からだと思います。それから15〜16年になります。私は2002年に東洋経済を辞めて、アメリカの大学で1年間教えて帰ってきてからは、フリーランスの記者をしていました。経済倶楽部の講演で随分いろいろ勉強させてもらいました。大学の授業もそうですが、話すということは非常に勉強になります。私もともと経済記者でした。大学ではマクロ経済学、国際経済学、金融論を教えています。しかし、今ではアメリカ研究が専門になっていて、もう十何年以上、国際基督教大学や日本女子大